

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007年～2010年

課題番号：19560647

研究課題名(和文) 石造建造物の発生と変容,そして終焉,西洋古代建築における「石」についての思想

研究課題名(英文) Development of Stone buildings and the Treatment of the Stone as a building material

研究代表者

堀 賀貴 (HORI YOSHIKI)

九州大学・大学院人間環境学研究院・教授

研究者番号：20294655

研究代表者の専門分野：西洋建築・都市史

科研費の分科・細目：建築学 建築史・意匠

キーワード：ポンペイ, オスティア, アコリス, 採石場, 切石積み, 生産史, 技術史

1. 研究計画の概要

オスティア, エジプトにてレーザースキャニング技術を用いた実測調査を行い, 組積造建造物および古代採石場について, 精密な三次元形状データを取得した。このデータを通じて, 古代ローマにおける石材建造物の発生, 変容, 終焉について, その技術史的, 生産史的意味について, 考察を加える。

2. 研究の進捗状況

計画通り, 調査を実施し, 三次元データを取得した。オスティアについては, 別途, 基盤研究Bの分担研究の成果報告を兼ねた報告をオスティア遺跡監督所へ提出。また, エジプトでの調査結果についても, 年報を執筆し, エジプト考古局へ提出した。また, 成果の一部を建築学会の論文報告集へ投稿, 国際学会においても2編の成果発表を行った。

3. 現在までの達成度

計画を遙かに上回る達成度である。

(理由)

すでに国際学会での論文1, 発表1, 国内学会誌での発表2編を行った。とくにオスティア調査に関しては, オスティア遺跡監督所の評価も高く, 今後の研究の進展が期待されている。

4. 今後の研究の推進方策

ポンペイでの調査結果にもとづく論考を引き続き国内, 国際学会で発表するとともに, オスティア, エジプトでの調査も実施する。さらに, 11月には研究成果の公開と, 国際的な評価を得るため, 国際シンポジウムを実施する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

堀 賀貴, ポンペイにおける道路排水計画に関する考察(1), 日本建築学会計画系論文集 第74巻 第642号, pp. 1895-1904, 2009年8月, 査読有り

堀 賀貴, 中部エジプト, ナズラ・スサイン・アリ東採石場の操業期間, 日本建築学会計画系論文集 第74巻 第642号, pp. 1911-1919, 2009年8月, 査読有り

Yoshiki HORI, Revising general maps in the light of evidence based on new surveys in Pompeii and Ostia using a long-range laser scanner, 22nd CIPA Symposium, October 11-15, 2009, Kyoto, Japan, 査読有り

[学会発表] (計1件)

Yoshiki HORI and Asami Hangai, Laser Scanning in Ostia a Comparative Study of Accuracy of the Drawings in 1950s and Field Survey on Tall Structures, Proceedings of the 3rd ISPRS International Workshop 3D-ARCH 2009: "3D Virtual Reconstruction and Visualization of Complex Architectures", Trento, Italy, 25-28 February 2009, 査読有り

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕